

全国学力・学習状況調査結果と分析

調査の概要	調査時期	平成22年4月21日(火)
	調査対象	全国中学校第3学年生徒
	内容	教科 国語, 数学 アンケート 生活と学習

本年度の全国の中学校3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。本校の教科全体の平均通過率は、国語科A・B問題、数学科A問題が全国の平均正答率と同じか上回る結果でしたが、数学科B問題では全国平均を下回る結果でした。

これまで、本校は授業改善に取り組んできています。各項目を見ますと、指導方法の工夫・改善の成果が見られるものが多くあります。しかし、全国の傾向と同様に、主として活用についての問題の正答率に低い傾向があります。今後は、この点の指導法の工夫・改善に努めたいと考えています。これからもより高い結果が出せるよう努力して参ります。何卒、ご理解とご協力をお願いいたします。

【国語】

定着状況は平均正答率が〔A問題〕〔B問題〕ともに全国および県の平均とほぼ同等の結果であるが、〔A問題〕においては「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域にやや課題が見られる。〔B問題〕においては、全領域ともに県の平均正答率より少し劣っており、活用する力が不十分である。

【国語A 主として知識】

	教科全体	話す聞く	書く	読む	言語事項
全国(公立)	75.1	74.2	71.1	76.6	75.8
県	76.0	74.0	73.6	77.0	76.7
本校	75.6	71.0	74.2	76.2	76.8

【国語B 主として活用】

	教科全体	話す聞く	書く	読む
全国(公立)	63.5	45.6	60.2	67.5
県	65.7	47.7	61.0	67.7
本校	65.3	46.4	59.8	67.4

課題は 説得力のある話し方、効果的な話し合いの仕方など「話すこと」の領域における知識が十分に定着していないこと、文章の展開をとらえ内容を理解する力が不十分であること、論理的な思考を深め、知識を活用できる力をつけていくことである。その要因として、話し合いの仕方や説得力のある話し方などの基本的な知識が十分に理解できていないこと、文章の展開をとらえて読むという意識が低く、慣れていないこと、学んだ知識と日常生活とのつながりを意識したり、自分の生活に活用したりする機会が少ないことが考えられる。

課題解決に向けた実践としては 授業の中で小グループや話し合いを積極的に取り入れ、話し合いや意見の述べ方を具体的に指導しながら、その知識を実践的に学習できるようにする。文章読解の前に必ず文章の構成や展開について考える時間を設け、確認する。また「書く」領域の学習においても文章の構成や展開に気をつけさせ、学習したことが自分の表現につながるようにする。説明文の読解において、展開の仕方や構造的にとらえられるような指導の工夫を行う。(キーワードに着目する、段落の中心内容や段落ごとのつながりを考える、見出しをつける、根拠を正確に読み取る、要旨をまとめる、段落の順序を考えるなど) 学習したことと日常生活とのつながりを考えたり、活用する機会を増やしていくことなどに取り組んでいきたい。

【数学】

定着状況は、授業でのきめ細かい指導や授業改善の取り組みを適切に行うことにより、全体的に学力が定着している。授業中の小テスト等で復習問題に継続的に取り組ませたことにより、知識や計算技能の問題で学力が定着している。課題としては、数学的な見方・考え方に関する問題、特に、筋道を立てて理由を説明するような記述式の問題で、正答率が低い。これは、与えられた問題への生徒の取組姿勢はよいが、主体的に学習に臨み、より深い理解や応用力を身につけようとする学習活動に課題があると思われる。その中でも主な課題としては、数量関係領域についての知識や技能が定着していないこと、数や

【数学A 主として知識】

	教科全体	数と式	図形	数量関係
全国(公立)	64.6	75.2	64.3	54.3
県	64.9	75.5	64.7	54.4
本校	64.7	76.6	65.7	51.8

【数学B 主として活用】

	教科全体	数と式	図形	数量関係
全国(公立)	43.3	43.2	40.2	45.5
県	43.3	43.6	40.7	44.9
本校	41.2	40.4	40.2	42.3

図形に関する性質の証明で、筋道を立てて理由を説明するのが苦手であること、深い理解や応用力を身につけようとする学習活動が不十分であることがある。その要因として、既習内容についての復習が不十分であること、説明するための見通しをもていないこと、結論と根拠とが整合した表現ができていないこと、与えられた問題への取組姿勢はよいが、主体的に学習に臨む態度に課題があることが挙げられる。課題解決に向けた実践として、授業中の小テスト等で復習問題に継続的に取り組ませ、知識や技能の定着を図る。数や図形に関する性質を考察する部分で、生徒自身が証明の見通しをもち結論を導く上で何を明らかにすればよいかを具体的に考えられるように、教材や発問を工夫する。主体的な学習につながる小グループ活動等を活用する工夫を行う。特に、生徒同士が説明しあう場面で、根拠・理由を的確に表現させるなど一層効果的な指導を行うなどに取り組んでいきたい。

【生徒質問紙の調査結果】(一部抜粋)		肯定的回答 %	
	内 容	全国	本校
1	朝食を毎日食べていますか	93.3	94.5
2	学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめていますか	84.5	87.0
3	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	71.0	82.0
4	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか	92.7	90.8
5	難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか	64.1	76.1
6	自分には、よいところがあると思いますか	63.1	68.6
7	将来の夢や目標を持っていますか	71.7	77.0
8	家の人と普段(月～金曜日)、夕食を一緒に食べていますか	82.7	82.0
9	家の人と学校での出来事について話をしていますか	63.7	60.3
10	家の手伝いをしていますか	64.8	65.2
11	家で自分で計画を立てて勉強していますか	41.8	52.7
12	学校で友達に会うのは楽しいと思いますか	95.0	96.3
13	学校で好きな授業がありますか	80.3	82.5
14	新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか	64.2	60.7
15	人が困っているときは、進んで助けていますか	74.3	74.4
16	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか	92.7	89.9
17	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	91.1	93.3
18	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	92.1	90.0
19	普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか	73.3	88.7
20	読書は好きですか	68.8	69.0

肯定的回答は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の回答です

肯定的回答が全国平均を10ポイント以上上回っているものに「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか」「家で自分で計画を立てて勉強していますか」「普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか」の問いへの回答があります。又、全国平均を5ポイント程度上回っているものに「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」の回答があります。逆に、3ポイント程度下回っている回答に「家の人と学校での出来事について話をしていますか」「新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか」があります。

全般的に本校の生徒は意欲的に生活しており、肯定的回答が高いことが伺えます。夢や希望を持ち、基本的な生活習慣が身につく学習も計画的に行おうとしているようです。特に、「普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか」の問いに対する肯定的な回答が、全国平均を15.4ポイント上回っているのは、本校が、研究主題「自ら学びを追求する生徒の育成～相手を意識した表現力の向上を通して～」として、授業研究に取り組み授業改善を行っている成果だと考えられます。しかし、「家の人と学校での出来事について話をしていますか」「新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか」が全国平均を下回っており、家庭でのコミュニケーションの機会を見直していただき、新聞やテレビニュースなどで社会に関心を持たせる指導が必要と思われる。